

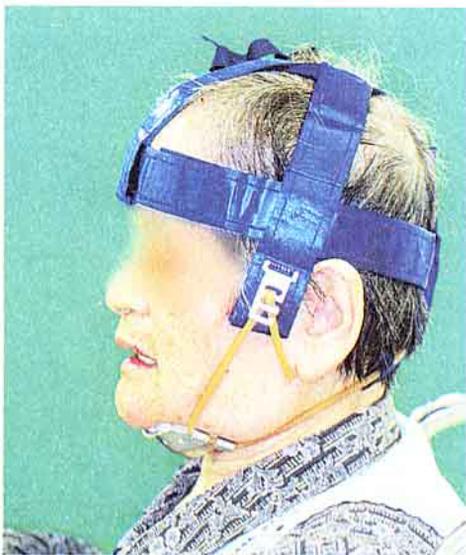
## 顎が外れる

高齢者は顎(かく)関節脱臼(だつじゅう)を起こしやすい。加齢とともに顎の関節の縮まりが

なくなるためだが、一度起こると再発を繰り返すことがある。注意すべきことを、昭和大学歯学部

(東京都)口腔(こうくわう)外科の新谷悟教授に聞いた。

▽気付きにくい  
顎関節脱臼は、よく言う「顎



チンキャップによる治療(新谷悟昭和大歯学部口腔外科教授提供)(一部画像を処理しています)

が外れる」という状態だ。どんな年齢層にも見られるが、特にお年寄りに多い。

「顎の関節が外れると痛みが生じ、受け口になって前歯

で食べ物をかめません。ただ、口は大体2センチほどは開くので、高齢者は自覚しにくいよ

うです。また、総入れ歯だと家族の人も気付きにくく、見

る。▽食べ方に注意  
頻繁に再発を繰り返したり

陳旧性(ちんじゅうせい)になったりすると、日常生活に大きく影響するばか

# 初期なら

# 装具療法で改善

逃しやすいです」

偶然、関節が元に戻るケースもあるが、通常は自分

では戻せない。そのまま放りか、治療でも手術が必要になる。

## 自分では戻せず再発も

置していると陳旧性といっくする弾性包帯や、チンキャ

ップという装具を1〜2週間付けてと改善します」

また、偶然元に戻っても、お年寄りは、顎の関節の鞅

帯(じんたい)などが衰えて

縮まりが悪くなるため、関節を外しやすい。早期発見するには、家族や介護している人はそれを念頭に置き、日ごろから食べ方に注意するのが第一だ。

「前歯でかめない、口をほんやりと開いている、あるいは総入れ歯でいつもより入れ歯が外れるといったことに気付いたときは、顎関節脱臼の可能性があるので、早めに口腔外科を受診すべきです」

治療後は、再発予防のために日常生活であくびなどで口を大きく開けない方がよい。(メデイカルトリビューン 時事)

◇ ◇  
昭和大学歯科病棟の所在地は、郵便番号145-8511  
5 東京都大田区北千束2の1の1。電話03(3787)1151(代表)。